

海峡に侵入する波浪について

明石工業高等専門学校 正員 西村益夫

正員 杉本修一

舞鶴工業高等専門学校 正員 前野賢彦

まえがき 同一の波長の波であっても、海峡に侵入する場合には、海峡の形によって、波浪の性状は変ってくる。その波浪の性状がどのように変わるのかということとは、海峡付近の港を通過する船にとって、重要な問題となる。今回の報告では、 x 軸に対称な双曲線を考え、この双曲線を海峡とみなして、この海峡に波が進入して来る場合について、波浪の性状がどのように変化するか、実際に数値計算を行い、検討を行うものとする。

基礎方程式 x 軸に対称な双曲線は、(1)式なる座標変換として表わすことができる。

$$x = c \sinh \xi \cos \eta, \quad y = c \cosh \xi \sin \eta \quad (1)$$

一方、波動方程式は、(2)式で表わされる。

$$\frac{\partial^2 \psi}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 \psi}{\partial y^2} + \frac{g}{\alpha} \psi = 0 \quad (2)$$

(2)式の波動方程式を(1)式により変形していくと(3)式を得る。この(3)式を基礎方程式とする。

$$\frac{\partial^2 \psi}{\partial \xi^2} + \frac{\partial^2 \psi}{\partial \eta^2} + \frac{c^2 g}{2g\alpha} (\cosh 2\xi + \cos 2\eta) \psi = 0 \quad (3)$$

<入射波> x 軸に対して α なる角度で入ってくる入射波の波動関数 ψ_1 は、(4)式のように表わすことができる。

$$\begin{aligned} \psi_1 &= \exp \{ i k [x \cos(\pi - \alpha) + y \sin(\pi - \alpha)] \} \\ &= \exp \{ i k (-x \cos \alpha + y \sin \alpha) \} \quad (4) \end{aligned}$$

また、(1)式の関係から、(5)式に示すようにおいて、(4)式を変形すると、(6)式を得る。

$$\cosh \xi \sin \alpha = p \cos \xi_0, \quad \sinh \xi \cos \alpha = p \sin \xi_0 \quad (5)$$

$$\psi_1 = \exp \{ -i k c p \sin(\xi_0 - \eta) \} \quad (6)$$

しかるに、(7)式で表わされる関係があることから、(6)式は、(8)式と表わされる。

$$\exp(i x \sin \theta) = J_0(\alpha) + 2 \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n}(\alpha) \cos 2n\theta + 2i \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n-1}(\alpha) \sin 2n-1\theta$$

$$\begin{aligned} \psi_1 &= J_0(kcp) + 2 \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n}(kcp) \cos 2n(\xi_0 - \eta) \\ &\quad + 2i \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n-1}(kcp) \sin 2n-1(\xi_0 - \eta) \quad (8) \end{aligned}$$

(8)式の実部をとると(9)式となる。

$$\operatorname{Re} \psi_1 = J_0(kcp) + 2 \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n}(kcp) \cos(\xi_0 - \eta) \quad (9)$$

また、一般に、 $J_n(-x) = (-1)^n J_n(x)$ であること

から、(9)式は、(10)式となる。

$$\psi_1 = J_0(kcp) + 2 \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n}(kcp) \cos 2n(\xi_0 - \eta) \quad (10)$$

また、 $\eta = \pm \eta_0$ の境界上では、(11)式を満足する ψ_2 が存在しなければならない。

$$\left| \frac{\partial(\psi_1 + \psi_2)}{\partial \eta} \right|_{\eta = \pm \eta_0} = 0 \quad (11)$$

そこで、 ψ_2 を(12)式のように仮定して、(11)式を満足するように、係数 C_m を求めると(13)式となる。

$$\psi_2 = \sum_{m=1}^{\infty} C_m \cos \left(\frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\eta_0} \eta \right) \quad (12)$$

$$C_m = \pm (-1)^{m-1} \frac{\eta_0}{\pi} \frac{8m}{2m-1} J_{2m}(kcp) \sin 2m(\xi_0 \mp \eta_0) \quad (13)$$

したがって、 $0 < \eta < \frac{\pi}{2}$ における波動関数 ψ_2 は、(14)式として表わされる。

$$\begin{aligned} \psi_2 &= \psi_{11} + \psi_{12} \\ &= J_0(kcp) + 2 \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n}(kcp) \cos 2n(\xi_0 - \eta) \\ &\quad + \frac{\eta_0}{\pi} \frac{8m}{2m-1} J_{2m}(kcp) \sin 2m(\xi_0 - \eta_0) (-1)^{m-1} \cos \left(\frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\eta_0} \eta \right) \quad (14) \end{aligned}$$

また、 $-\frac{\pi}{2} < \eta < 0$ における波動関数 ψ_2 は、(15)式として表わされる。

$$\begin{aligned} \psi_{22} &= \psi_{11} - \psi_{12} \\ &= J_0(kcp) + 2 \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n}(kcp) \cos 2n(\xi_0 - \eta) \\ &\quad - \frac{\eta_0}{\pi} \frac{8m}{2m-1} J_{2m}(kcp) \sin 2m(\xi_0 + \eta_0) (-1)^{m-1} \cos \left(\frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\eta_0} \eta \right) \quad (15) \end{aligned}$$

さらに、 x 軸では、 $0 < \eta < \frac{\pi}{2}$ 、 $-\frac{\pi}{2} < \eta < 0$ の両領域における ψ の値が一一致しなければならないので、(16)式のように、(14)、(15)式に ψ_2 を加減して、 ψ_3 を求めると、(17)式となる。

$$\psi_2 + \psi_{12} = \psi_{11} - \psi_{12} \quad (16)$$

$$\psi_3 = \frac{1}{2} (\psi_{22} - \psi_2) \quad (17)$$

Masuo NISHIMURA, Syuichi SUGIMOTO, Yoshihiko MAENO

$$= -j(-1)^{m+1} \frac{\gamma_0}{\pi} \frac{8m}{2m-1} J_{2m}(kcp) \sin 2m \xi_0 \cos 2m \gamma_0 \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma \} \quad (17)$$
 した時、 $0 < \gamma < \frac{\pi}{2}$ における波動関数 ψ_2 とした時、 ψ_2 は (18), (19) 式のようになる。

$$\begin{aligned}
 \psi_2 = & J_0(kcp) + 2 \sum_{m=1}^{\infty} J_{2m}(kcp) \cos 2m(\xi_0 - \gamma) \\
 & + \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) \sin 2m(\xi_0 - \gamma_0) \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma \\
 & - \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) \sin 2m \xi_0 \cos 2m \gamma_0 \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma \quad (18)
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 \psi_H = & J_0(kcp) + 2 \sum_{m=1}^{\infty} J_{2m}(kcp) \cos 2m(\xi_0 - \gamma) \\
 & - \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) \sin 2m(\xi_0 + \gamma_0) \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma \\
 & + \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) \sin 2m \xi_0 \cos 2m \gamma_0 \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma \quad (19)
 \end{aligned}$$

〈拡散項〉 海峡の最狭部を通過後拡散していく波についての波動関数を ψ_2 とすると、(20) 式で示す境界条件を満足しなければならない。

$$\left. \frac{\partial \psi_2}{\partial \gamma} \right|_{\gamma = \pm \gamma_0} = 0, \quad \psi_2|_{\xi_0 = 0} = \psi_2|_{\xi_0 = \pi} \quad (20)$$

そこで、 ψ_2 を (21) 式のように仮定して、(20) 式で示した境界条件を満足するように、 A_m を求めると、(22) 式となる。

$$\psi_2 = \psi_{21} + \psi_{22} \quad (21)$$

$$= J_0(kcp) + 2 \sum_{m=1}^{\infty} J_{2m}(kcp) \cos 2m(\xi_0 + \gamma) \} J_0(kc\xi) + \sum_{m=1}^{\infty} A_m \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma$$

$$A_m = \frac{2 \sum_{m=1}^{\infty} \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) \sin 2m \xi_0 \pm \gamma_0 J_0(kc\xi)}{\dots} \quad (22)$$

$$- \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) J_0(kc\xi)$$

$$\cdot \sin 2m \xi_0 \cos 2m \gamma_0 \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma$$

以上求めた、(18), (19), (21), (22) 式を解くとになり、

海峡を通過する波の検討を行う。数値計算例を

右図に示した。それによると、波は、海峡を通過後、波長が短くなり、回折しているようすが見受けられる。なお、図中の黒丸は、波の谷の部分を示している。また、白丸は、波の峰を示している。計算例は、周期 12sec、水深 80m、波長 220m、海峡幅 400m、 $\gamma_0 = 30^\circ$ の場合である。

した時、 $0 < \gamma < \frac{\pi}{2}$ における波動関数 ψ_2 とした時、 ψ_2 は (23), (24) 式となる。

$$\psi_2 = \psi_{21} + \psi_{22} \quad (23)$$

$$\begin{aligned}
 = & \{ J_0(kcp) + 2 \sum_{m=1}^{\infty} J_{2m}(kcp) \cos 2m(\xi_0 + \gamma) \} J_0(kc\xi) \\
 & - \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) \sin 2m(\xi_0 + \gamma_0) J_0(kc\xi) \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma
 \end{aligned}$$

$$\psi_H = \psi_{21} + \psi_{22} \quad (24)$$

$$\begin{aligned}
 = & \{ J_0(kcp) + 2 \sum_{m=1}^{\infty} J_{2m}(kcp) \cos 2m(\xi_0 + \gamma) \} J_0(kc\xi) \\
 & + \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) \sin 2m(\xi_0 - \gamma_0) J_0(kc\xi) \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma
 \end{aligned}$$

さらに、入射波と同様の考えにより、(25) 式で表わされる ψ_3 を求めると (26) 式となる。

$$\psi_2 + \psi_3 = \psi_H + \psi_3 \quad (25)$$

$$\psi_3 = \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) J_0(kc\xi) \sin 2m \xi_0 \cos 2m \gamma_0 \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma \quad (26)$$

した時、 ψ_2 は (27), (28) 式となる。

$$\begin{aligned}
 \psi_2 = & \{ J_0(kcp) + 2 \sum_{m=1}^{\infty} J_{2m}(kcp) \cos 2m(\xi_0 + \gamma) \} J_0(kc\xi) \\
 & - \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) \sin 2m(\xi_0 + \gamma_0) J_0(kc\xi) \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma
 \end{aligned} \quad (27)$$

$$+ \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) J_0(kc\xi) \sin 2m \xi_0 \cos 2m \gamma_0 \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma$$

$$\psi_H = \{ J_0(kcp) + 2 \sum_{m=1}^{\infty} J_{2m}(kcp) \cos 2m(\xi_0 + \gamma) \} J_0(kc\xi) \quad (28)$$

$$+ \frac{8m}{2m-1} \frac{\gamma_0}{\pi} (-1)^{m+1} J_{2m}(kcp) \sin 2m(\xi_0 - \gamma_0) J_0(kc\xi) \cos \frac{2m-1}{2} \frac{\pi}{\gamma_0} \gamma$$

